

# DESIGN MUSEUM JAPAN STUDY 展 未来のデザインミュージアムへの提案

2022年10月22日(土)・23日(日) 10:00~21:00

【会場】 MUJI キャナルシティ博多 (ノースビル4F) 内「OPEN MUJI」  
キャナルシティ博多 B1F クリスタルキャニオン

【入場料】 無料



日本にはまだ国立のデザインミュージアムがありません。

「DESIGN MUSEUM JAPAN STUDY 展」は、デザインミュージアムの設立を目指す活動の一環で企画されました。

九州大学大学院統合新領域学府の学生たちが福岡のまちをフィールドワークして見つけ出した4つのテーマをデザインの切り口で掘り下げるという試行錯誤のデザインリサーチの成果を、未来のデザインミュージアムへの提案として展示しています。

屋台にみる不変デザイン



高取焼とモダンデザイン



福岡市地下鉄シンボルマークのデザイン



筑後川の水をとりまく命のサステナブルデザイン



DESIGN  
MUSEUM  
JAPAN  
Study

主催：九州大学大学院統合新領域学府 池田研究室  
株式会社エフ・ジェイエンターテインメントワークス  
一般社団法人 Design-DESIGN MUSEUM

共催：クリエイティブ・ラボ・フクオカ

協力：MUJI キャナルシティ博多店

お問合せ：キャナルシティ博多情報サービスセンター

TEL. 092-282-2525 (10:00-21:00)



# 福岡のデザインの宝物

## まち全体をデザインミュージアムの収蔵庫に変えるデザインリサーチの視点

### 屋台にみる不変デザイン

時を経ても受け継がれる  
変わらないデザイン



夕方になると、博多のまちは屋台の明かりで彩られ多くの人で賑わいます。立ち並ぶ屋台には伝統的な形のものもあれば、現代的なものもあり、ともに「福岡らしさ」をつくりだしています。

本展示では「屋台」をデザインの視点から捉え、伝統的な屋台と新しい屋台を対比させることで見出した時を経ても受け継がれる「不変デザイン」を多面的に展示しています。屋台は、プロダクトからインテリア、グラフィック、サービス、システム、モビリティ、さらには屋台がつくりだす街の景観まで、あらゆるレベルで見事に考えられたトータルデザインです。そして屋台のトータルデザインは、伝統的屋台と新しい屋台に見出すことのできる不変のデザインと言えるでしょう。

### 高取焼とモダンデザイン

デザインとは何か？



約400年続く高取焼の歴史は17世紀前半、朝鮮の陶工たちが九州へ渡ってきたことに始まります。高取焼は、七隈で発見された黒田藩の御用窯時代の陶土と7つの釉薬を用いて作られる薄造りの特徴を持つ焼物です。本展示では、高取焼の伝統を受け継ぐ高取焼味楽窯の器とモダンなデザインの無印良

品の器を参照し、それぞれが持つ特徴から「デザインとは何か？」について考えます。高取焼の器は、陶工が一人で、土づくりから器の成形、素焼き、釉薬がけ、本焼きまでの工程を自らの手で行います。一方、近代以降のデザインは機械生産を前提とし、人が行うデザイン（設計）と機械による生産工程が分離しました。

釉薬から生まれる豊かな表情をもつ高取焼と、装飾性を排除したシンプルさを追求してきた近代デザイン。近代以降、工芸とデザインは歴史的には別々の道を歩んできましたが、現代の目で両者を比較すると、その根底に流れる思想には多くの共通点が見出せます。

### 福岡市地下鉄シンボルマークのデザイン

象徴を可視化するデザイン



福岡市地下鉄は全ての駅にシンボルマークがあり、2023年に新設される「櫛田神社前駅」のものを含めるとその総数は36種類になります。日常の中で誰もが慣れた駅のシンボルマークを、その成り立ちから造形のディテールまでデザインの視点で見えていくと、その象徴的な価値や日々見過ごしている福岡の伝統文化や生活文化、歴史が浮かび上がってきます。本展示では、36のシンボルマークのデザインプロセスとデザイナーの西島伊三雄さん、雅幸さん父子のデザインに対する考え方に焦点を当て、シンボルマークに込められた福岡の魅力を読み解きながら、象徴を可視化するデザインの裏側を探っていきます。特に「櫛田神社前駅」のシンボルマークが決まるまでに生み出された数々の別案からは、場所の意味を読み取り可視化するプロセスが見えてきます。

### 筑後川の水をとりまく

### 命のサステナブルデザイン

人や生き物の命をつなぐ切実なデザイン



近年「サステナビリティ」という言葉をよく耳にするようになりました。福岡県南部筑後地方の豊かな大地と人々の生活を支えてきた河川の代表は筑後川です。江戸時代から脈々と続く生物や自然環境のサステナビリティを可能にしなが、自然と人々の営みを調和させてきたデザインを掘り下げます。本展示では「命」に着目し、筑後川が育んできた命をつなぐサステナブルデザインを探求しながら、さらに視点を広げて都市にも目を向け、歴史的に渇水と浸水に悩まされてきた福岡市民の命を支える水のインフラのデザインを紹介します。本展示では「人や生き物の命をつなぐ切実なデザイン」を問いかけます。

【関連企画】トークイベント

DESIGN MUSEUM STUDY 2022 TALK

【日時】10月22日(土) 14:00~16:00

【会場】the company キャナルシティ博多前

※オンライン配信あり

【参加費】無料(要事前申し込み)

お申込み



詳細



企画・リサーチ・制作

九州大学・DMJS プロジェクトチーム:

岩井和也、黒田隆之、竹中ゆき奈、田戸萌子、峠谷佳紀、利根龍二、原慎太郎、米娜、村上良太、李昕怡、李若華